

2019.06.20

福岡市西区・
今津干潟の
アオサギ、
ツバメ、
クロツラヘラサギ



アオサギ (蒼鷺)
サギ科 L=93cm



ツバメ (燕、玄鳥、乙鳥) ツバメ科



クロツラヘラサギ (黒面琵鷺)
トキ科 L=77cm



15:35 今津干潟



15:36 今津干潟

2019.6.19

(第3種郵便物認可)

クロツラヘラサギ「居残り」

越冬地 今津干潟に3羽確認

繁殖年齢達しない若鳥か



福岡市西区の今津干潟にとどまっているのが確認された3羽のクロツラヘラサギ
115日午後6時半ごろ

環境省の絶滅危惧種に指定されているクロツラヘラサギが、越冬シーズンの終わって今月中旬になっても福岡市西区の今津干潟にとどまっている。保護活動に

取り組む市民団体「日本クロツラヘラサギネットワーク」（福岡市）事務局の松本悟さん（65）によると、若齢の場合、繁殖への渡りをせず越冬地で夏を過ごすことがあり、同干潟ではこうした個体が毎年数羽が確認されるといふ。

「見かけない白い鳥がいる」。読者から情報が寄せられ、15日午後6時半ごろ、瑞梅寺川河口付近の干潟を訪ねたところ、3羽のクロツラヘラサギがいるのを見つけた。エサとなる小魚を

捕まえているのか、長いヘラに似たくちばしを浅瀬に突っ込んで左右に振っている様子が確認できた。

松本さんによると、クロツラヘラサギは主に朝鮮半島西岸の離島で繁殖。10月から九州のほか、台湾、ベトナムなどに渡って冬を越し、今津干潟では5月までには繁殖地へと旅立つ。ただ、繁殖の年齢に達していない1、2歳の若い鳥にはあえて渡りをしない個体もいる。確認した3羽も、くちばしにできたしわが少ないため、昨年誕生した鳥とみられるという。

今年1月に世界一斉に行われた個体数の調査では東アジアのみに約4500羽が生息。松本さんは「絶滅危惧種がやって来る数少ない干潟であることを意識し、大事に見守ってほしい」と話していた。（下村佳史）



アオサギ (蒼鷺)
サギ科 L=93cm



アオサギ (蒼鷺)
サギ科 L=93cm



アオサギ (蒼鷺)
サギ科 L=93cm



ダイサギ (大鷺)
サギ科 L=90cm



ツバメ (燕、玄鳥、乙鳥)
ツバメ科



ハシボソガラス (嘴細鴉) カラス科 L=50cm



ハシボソガラス (嘴細鴉)
カラス科 L=50cm



アオサギ (蒼鷺)
サギ科 L=93cm



ダイサギ (大鷺)
サギ科 L=90cm



クロツラヘラサギ（黒面篋鷺）
トキ科 L=77cm

A photograph of two white birds with black faces and long bills, likely Black-faced stilts, standing in shallow water on a rocky shore. The birds are facing each other, and their reflections are visible in the water. The background is a rocky, pebbly shore.

クロツラヘラサギ（黒面篋鷺）
トキ科 L=77cm



ダイサギ（大鷺）
サギ科 L=90cm



クロツラヘラサギ（黒面篋鷺）
トキ科 L=77cm



クロツラヘラサギ（黒面篋鷺）
トキ科 L=77cm

クロツラヘラサギ（黒面篋鷺）
トキ科 L=77cm



ダイサギ (大鷺)
サギ科 L=90cm



アオサギ（蒼鷺）
サギ科 L=93cm



今 津 橋

15:35 今津干潟



クロツラヘラサギ（黒面篋鷺）
トキ科 L=77cm

END



クロツラヘラサギ（黒面篋鷺）
トキ科 L=77cm